

# 美術科部会

## 研究主題

美術の基礎的能力を身につけ、自分の思いを作品を通して表現しようとする生徒の育成

## 1 主題について

今年度は、どのような分野の題材においても、生き生きと自分の思いを表現できる基礎的能力を身に付けさせたいと考えた。また、その中でも感じ取ったことを伝え合う場を設けることで、見方や感じ方などの感性を高めたいと考え、本主題を設定した。

## 2 今年度の取組

月 日	実 践 内 容	月 日	実 践 内 容
4月13日	第1回総合研究会 研究主題決定・年間計画確認	10月28日	第2回総合研究会（比内中） 授業研究会・各校の実践紹介

## 3 研究内容

### (1) 授業研究

- ・期 日 平成23年10月28日（金）
- ・会 場 比内中学校
- ・題材名 絵文字をつくろう
- ・授業者 佐々木 由美

#### ① 授業者から

- ・絵文字は生徒も楽しく制作しているので毎年取り組んでいる。個人で制作する場面が多い教科だが、今年度研究テーマに沿って、生徒がお互いに関わり合う場面をいくつか設けた。
- ・1年生は、図工から美術に変わって初めての年なので、ハードルはあまり高くせず、造形遊びの要素も入れてスムーズに美術に入っていけるよう考慮した。絵が苦手な生徒でも切ったり貼ったりして楽しんでほしい。本時の授業は、いままさにこれからアイデアがふくらんでいくところ。最後に作品を見合うとき、当初は「何でもいいから思ったこと」について発表していたが、発表しにくいかと思い「工夫したこと」を言えるようにした。
- ・進捗差が出てしまい、完成した生徒の扱いが難しい。

#### ② 協 議

- ・本時はデザインの授業であったが、何をねらいとするのかを考える。目に見えるものだけではなく「気」や「恋」などの目には見えないものを扱った生徒もいた。絵文字は最終的に、文字が読めない人にもその意味が伝わるようにデザインするという扱いの方がよいのではないか。
- ・今は、パソコンで美しい文字が簡単に印刷できる。レタリングはどこまで取り扱うべきか。美術の時間が少ない中でどの題材でどのような力を身に付けさせるのかをよく考え、楽しいだけではなく学びのある題材にしなければならない。



【作品鑑賞の場面】

## (2) テーマ研究

- ・本時の伝え合う場面として、授業の始めと最後に鑑賞が2回設定された。生徒の作品を貼って見せ合うことによって意見交換ができていたのでよい。始めの鑑賞ではキーワードを色と形にしばっていた。生徒の発言が単語のみであったので、もっとその色や形からイメージや話を広げていくように仕向けて生徒に語らせたい。キーワードを教師が先に言わず、グループ協議などで話し合わせる中で気付かせていく方法もある。

## (3) 指導助言（嘉藤 貴子 指導主事）

- ・評価について、観点も基本的な考え方も大きくは変わっていないが、長いスパンで繰り返し見ることを大事にしたい。一つの題材の中ではどこに重きを置いて評価するのかを確認し、1時間の評価、題材の評価、年間の評価を大きくとらえ、効率よく行う工夫をしたい。
- ・年間指導計画について、題材で付ける力を明確にし、何時間必要なのかを精査する。45時間、35時間という限られた時間の中で、効率をあげるというのも一つの視点。1年間の題材をどう並べ3年間でどう積み上げるのかを考える。また、鑑賞の位置付けも、単発ではなく3年間の積み重ねや表現との関連を考えたい。表現では、生徒ができるだけ多くの経験ができるように、材料・用具・表現方法を工夫する。また、〔共通事項〕の視点からも確認してほしい。
- ・「伝えあう」ということについて、教科のねらいを達成させるための言語活動の充実であることを確認したい。表現する活動をけずった上に話し合いの意味がなければ、ねらいは達成できない。話し合うことが目的ではなく、思考を深める場面だととらえ、どこに設定し、どんな方法で、どんな視点で行うのかをねらいに沿って考えたい。
- ・進度差は出てくるものと考え、そのための対応を準備したい。早くできる生徒の中には意欲が高い生徒が多く、足踏みさせずにもっと力を伸ばしたい。そのための発展学習を準備し新たな気付きを生み出すことで、さらに美術が好きになるという流れにつなげたい。
- ・学習カードについて、何のためのカードなのか、ねらいをもって作る。アイデアを広げるためなのか、見取るためなのか、見取るとすれば何を見取りたいのか。また、振り返りはねらいに沿って焦点をしばって書かせる。
- ・環境づくりに関連して、表現活動を美術室の中だけにとどめず、できるだけ多くの人の目に触れさせたい。学校の中、外、地域など、発信の場を広げてほしい。

## 4 成果と課題

## (1) 成果

- ・今年度は伝え合う場の設定について、生徒からの言葉の引き出し方や場の設定の仕方など、見方や感じ方を深める手立てについて学ぶことができた。また、各校の校内掲示の例も共有でき、美術科として生徒の感性を高める実践に今後も取り組んでいきたい。

## (2) 課題

- ・題材を設定する時は、そのねらいや付けさせたい力、前年度や次年度とのつながりを考慮する必要がある。限られた時間の中でできるだけ多くの材料や用具の経験をさせ、美術の力を効率よく付けさせられるよう工夫する。